

「地域文化クラブ活動への移行に向けた実証事業」において取り組むべき観点

【観点①】

地域の実情等に応じた多様な地域クラブ活動のモデル（収支構造を含む。）の構築等

- 各地域の実情等に応じた地域クラブ活動を整備する観点から、域内において、人口規模・密度、中山間地域・離島などの地理的条件、中学校数、中学校の規模、生徒数、運営団体・実施主体等に応じた多様な地域クラブ活動（収支構造を含む。）のモデルの構築を図る。
- 大会志向で特定の分野に継続的に専念する活動だけではなく、例えば、体験教室などの活動やレクリエーション的な活動、障害の有無や年齢等にかかわらず誰もが一緒に参加できる活動など、生徒の志向（希望する内容も含む。以下同じ。）や状況に適した文化芸術に親しむ機会を提供する地域クラブ活動のモデルの構築を目指す。また、生徒のニーズや意見等が反映される仕組み（例えば、生徒によるワークショップの実施や児童・生徒へのアンケート調査等）や生徒が地域クラブ活動の運営に参画して活動を支える事例の収集等を行う。
- モデルの構築に当たっては、モデルの構築に至るプロセスを分析する観点から、現場で課題解決に中心的に取り組んだキーパーソン（例えば、総括コーディネーターや教育委員会の指導主事、中学校教職員、地域文化振興担当部署職員、文化芸術協会職員、各分野団体職員等）の役割や取組内容、能力・経験等を明らかにし、事例として収集する。

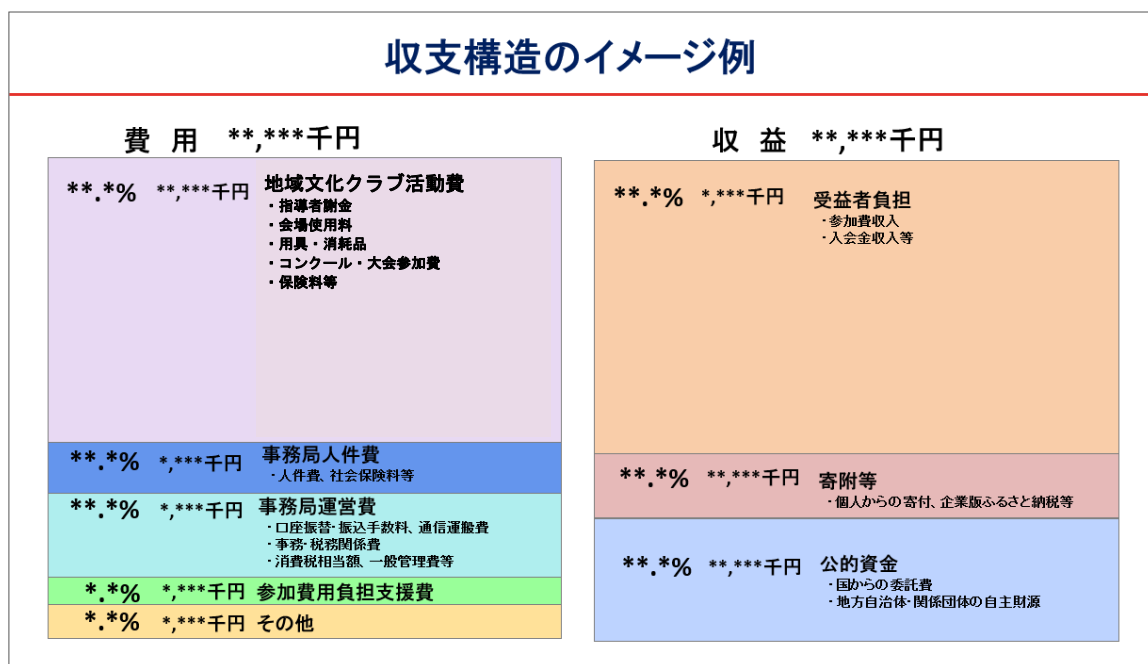
【観点②】

地域クラブ活動の維持・運営に必要なコスト、受益者負担等と公的資金の適切なバランスの検証、エビデンスとしての整理

- 持続的に活動することを前提とした仕組みづくり（例えば、国費だけではなく、受益者負担や行政・関係団体の自主財源、寄附等を活用した基金の創設、企業版ふるさと納税の活用、学校施設の管理運営の指定管理者制度や業務委託の導入等）を推進する。特に、都道府県は、域内の各市区町村における検討や取組等の状況を把握するとともに、必要な指導助言を行う。
- 将来的な枠組みや支援方策の検討等を視野に入れて、地域クラブ活動の運営や指導者配

置等に必要のコストを検証するとともに、こうしたコストをどのように賄っていくかについて受益者負担等と公的資金との適切なバランスも含めて収支構造を検証し、エビデンスとして整理する。また、検証に当たっては、学校部活動においても部費等として一定の受益者負担が生じていたことにも留意する。

(図1：収支構造のイメージ例)



【観点③】

観点②を前提とした経済的困窮世帯への参加費用負担支援の金額の検証、個人情報保護や手続き、事務負担等の観点からの参加費用負担支援のスキームの検証、好事例の収集

- 将来的な枠組みや支援方策の検討等を視野に入れて、地域クラブ活動のモデルに応じた経済的困窮世帯への参加費用負担支援の金額を検証し、エビデンスとして整理する。
 - これまで試行されている事例、想定される取組例等
 - ・ 参加費の月額 3,000 円のうち、経済的困窮世帯には月額 2,000 円を実質的に減免。
- 個人情報の保護、保護者による手続きの負担、地方自治体や運営団体の事務負担等の観点から、域内における地域クラブ活動の運営団体の類型等に応じた経済的困窮世帯への参加費用負担支援のための手続等のスキームを検証するとともに、好事例を収集する。

- これまで試行されている事例、想定される取組例等
 - ・ 保護者等が、地域クラブ活動の運営団体に就学援助決定通知書の写しを持参して申請することにより、参加費等を減免する。
 - ・ 地域クラブ活動の運営団体への参加申込の際に、保護者等から個人情報に関する同意、手続きの委任等を受け、運営団体が地方自治体に確認した上で、対象者の参加費等を減免する。

【観点④】

指導者の質の保障、適切な指導の実施、指導者の量の確保に関する方策の検証、好事例の収集

- 生徒の多様なニーズに応えられる指導者の養成や資質向上を図る観点から、地域クラブ活動に携わる指導者に対して、地域の実情や地域クラブ活動の方針、参加者の志向等に応じた研修機会を提供するとともに、指導者が学び続けられる仕組みづくりや指導者資格の取得を目指す環境整備も進め、指導者の質の保障、適切な指導の実施の担保方策を検証するとともに、好事例を収集する。

- これまで試行されている事例、想定される取組例等
 - ・ 都道府県が大学と連携して、指導者研修プログラムを整備。
 - ・ 市区町村が、地域クラブ活動に携わる指導者全員を対象にした研修会を開催。
 - ・ 地域クラブ活動の運営団体が、指導者資格を取得できる研修会を開催。
 - ・ 指導経験の少ない指導者が、指導の現場で指導経験の豊富な指導者とともに、オン・ザ・ジョブ・トレーニングを実施。
 - ・ 地域クラブ活動の方針や志向等に応じた参加者の安全確保や見守りに重点を置いた研修の実施。

- 指導者の量の確保の観点から、指導者の発掘・把握、人材バンクの整備に取り組むとともに、地域クラブ活動と指導者とのマッチングを推進する取組も進め、指導者の量の確保方策を検証するとともに、好事例を収集する。

- これまで試行されている事例、想定される取組例等
 - ・ 都道府県、市区町村、地域クラブ活動の運営団体等が、文化芸術団体等に指導者の紹介や推薦、人材バンクへの登録等の協力を依頼。
 - ・ 都道府県が、企業への協力依頼を行い、企業の従業員の人材バンクへの登録や従業員が指導者として活躍しやすい就業環境の整備を促進。
 - ・ 地域クラブ活動の運営団体等が、活動の方針や参加者の志向等に合った指導者を見

つけることができるよう、一定の期間を試行期間として区切って指導者に指導を依頼し、実際の指導の状況を踏まえて、継続的な指導を依頼するマッチングの仕組みづくり。

【観点⑤】

地域クラブ活動を支える人材育成や仕組みの整備

- 地域クラブ活動の持続的運営の観点から、総括コーディネーターやコーディネーターに求められる役割や資質等の分析を行い、長期的な視野から、人材の発掘・育成、資質向上方策に関する検討を行う。
- 地域クラブ活動の運営に必要な業務を効率的かつ低コストで対応できるよう、ICTの活用や文化芸術団体のノウハウの活用等を進める。
 - これまで試行されている事例、想定される取組例等
 - ・ 参加者管理、会費徴収、参加者・指導者への連絡、会場の確保・調整、会計業務等へのICTの活用。
 - ・ 各文化芸術団体が使用している様式やデータのフォーマット、運営マニュアル等の共有。

【観点⑥】

地域クラブ活動の要件等の明確化を図る方策の検証、好事例の収集・普及

- ガイドラインに沿った生徒の文化芸術活動の場として地域クラブ活動を推進するとともに、地域クラブ活動を提供する新たな運営団体・実施主体の参画を促進する観点から、特に、公的支援（例えば、財政的支援、公共施設の優先利用、使用料減免等）の対象となる地域クラブ活動の要件や基準等を明確化する取組を検証するとともに、好事例を収集する。
 - これまで試行されている事例、想定される取組例等
 - ・ 都道府県が示した地域クラブ活動の要件を踏まえ、市区町村が地域の実情を踏まえながら、地域クラブ活動の要件を調整して設定し、登録・指定等を実施。
 - ・ 市区町村が、独自に認定制度を設けて、地域クラブ活動を認定。

【観点⑦】

全国的な取組の推進

- 全国的な取組を推進する観点から、実証事業を初めて実施する市区町村の取組を進めるとともに、域内の市区町村の担当職員等が、課題の共有や学び合いができる仕組みづくりを推進し、学校部活動の地域クラブ活動への移行に取り組む市区町村数の拡大を図る。
 - これまで試行されている事例、想定される取組例等
 - ・ 都道府県が開催する市区町村の担当者会議において、先行実施している市区町村の取組みの説明や情報提供等を行うとともに、市区町村担当者が参加するグループワークやワークショップを実施。
 - ・ 運動部活動の地域クラブ活動への移行に関する協議会等との合同会議により、地域移行に関する共通課題等を整理し、文化部活動の地域クラブ活動への移行に向けた取組方針を策定し、新たな地域クラブ活動の取組みを実施。

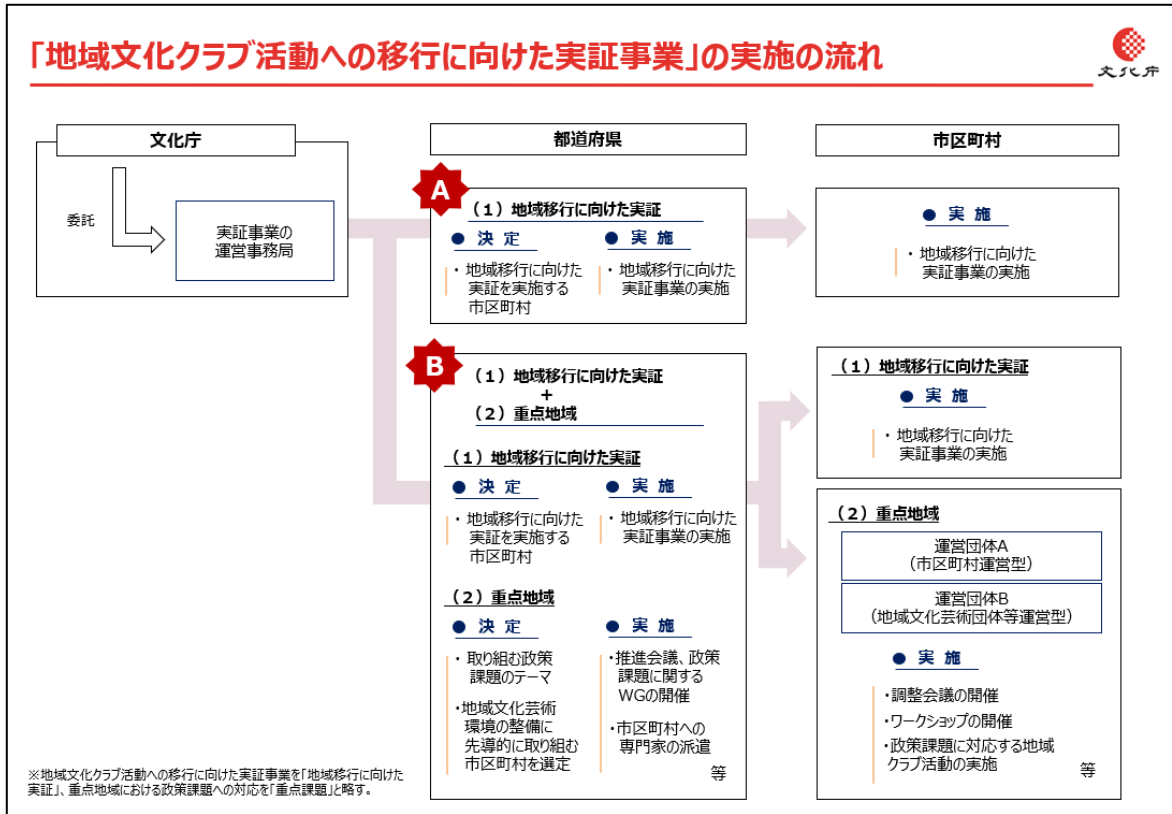
- 全国的な取組を推進する観点から、単一自治体での対応が困難な場合の市区町村を超えた取組を推進する。
 - これまで試行されている事例、想定される取組例等
 - ・ 都道府県が、複数の市区町村による広域連携のための調整の場を設定。
 - ・ 複数の市区町村が共同で地域クラブ活動の運営団体等を整備。

【観点⑧】

改革推進期間終了後を見据えた取組の推進

- 改革推進期間後を見据えた取組を推進する観点から、休日だけではなく平日も含めた地域クラブ活動への移行に向けた取組等を実施し、課題の抽出や課題解決策の検討等を行う。
 - これまで試行されている事例、想定される取組例等
 - ・ 休日に加えて、平日の一部の学校部活動を地域クラブ活動に移行（例えば、平日の週3日は学校部活動、平日の週1日と休日の週1日は地域クラブ活動）。
 - ・ 休日に加えて、平日の活動日数や活動時間を見直した上で、学校部活動を地域クラブ活動に移行（平日の活動日数を週4日から週2日に変更するとともに、指導者を確保するため、安全確保等に十分配慮しつつ、活動時間を放課後から夜間に変更）。
 - ・ 休日に加えて、平日の全ての学校文化部活動を地域クラブ活動に移行。

(図2：実施の流れ)



(図3：事業の経費構成)

